

トルコ為替週報

2022年2月1日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(1月25日～1月31日)

USD/TRY: 13.2900～13.6700 (注1)

TRY/JPY: 8.39～8.67 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラ相場は、(昨年末の値動きを基準にすれば)軟調気味の膠着の先行から、週末に前後して急反発。30日に13.30(対ドル)を上抜けた後は、反落に転じ、5営業日を振り返ると、結局、概ね横ばいに終わった。リラ軟調の先行に、特段の新規リラ売り要因があったようには思われなかった。11月に(3ヵ月ぶりに)赤字に転落したトルコ経常収支動向に鑑みれば、その赤字を打ち消して余りあるだけの押し上げ要因がなければ、リラが軟調を基調とするのは自然な値動きのほう。その意味では、31日発表されたトルコ12月貿易収支が、概ね市場予想に沿った水準だったとは言え、60億ドルを超える赤字を示した事実も、リラには重石になる材料だったはず。60億ドルを超える貿易赤字というのは2017年後半から2018年半ばにかけてしばしば観察された、近年では「大幅」と言える規模。当時の経常収支は月次で40～60億ドル前後の赤字を中心に推移していた。31日のリラ急反発の背景には、法人向けにも解禁された為替差損補填リラ預金への資金流入を指摘する声の一部で聞かれた。とりわけ、同預金の金利収入が課税対象から除外されることを好感してとの解説だったが、そのこと自体、少なくとも1月12日にはわかっていたことで(注2)、今更、この税免除がリラを押し上げたと考えるのは不自然に感じられた。或いは、28日のリラ反発に、「アゼルバイジャンの政府系ファンドが、トルコ中銀に10億ユーロを預金する」との報が貢献した可能性も考えられなくはなかったが、僅か10億ユーロの預金が、しかも同預金は期間6ヵ月で(注3)、リラの方向感を根本的に変える要因とは考えられなかった。27日に発表された政府官報の内容など(後述)は、むしろリラ安要因と読めたはずだが、既述の通り、週明け31日の通貨市場ではリラ続騰が先行した。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
1/25	7:00	設備稼働率	1月	77.6%		78.7%
1/31	7:00	貿易収支(USD)	12月	-6.79bn	-6.60bn	-5.43bn
	8:00	外国人観光客(前年比)	12月	+170.6%		-111.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(2月1日～2月7日)

USD/TRY: 13.250～13.650

TRY/JPY: 8.40～8.70

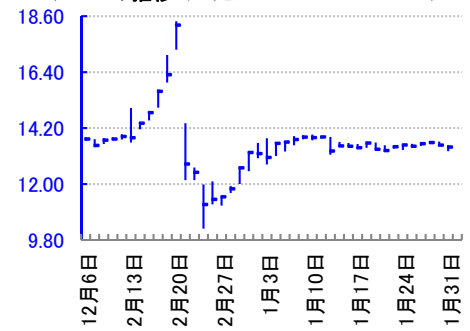
向こう1週間のトルコ・リラ相場は、下落を予想。上述の通り、特段のリラ押し上げ材料がなければ、経常赤字ファイナンスの必要を要因に、リラが軟調を基調とするのは避けられないはず、リラ下落を予想するのは、リラ押し上げ材料を思いつけない上に、この間、理由にならない理由でリラ水準が不自然に押し上げられたと感じるから。不自然な理由というのは、上述の法人向け為替差損補填リラ預金の焼き直しや、アゼルバイジャン政府系ファンドのユーロ預金を意味する。一方で、或いは31日のリラ急反落に貢献した可能性は考えられたものの、週末の間(29日)に確認された潜在的なリラ売り材料が看過されたように見えたことも、目先のリラ売りを予測する理由。そのひとつはトルコ統計局の局長が更迭されたこと。同局長は、11ヵ月前にエルドアン大統領が解任した前任者の後任だが、1年と持たずに更迭された。同統計局は、昨年後半以降、発表される物価指標(CPI)が「生活実感とかけ離れている」との批判を集めていた。もうひとつは、エルドアン大統領の「金利はまだ下がる」との発言。トルコ中銀が27日に発表したインフレ報告書は、22年末のCPI予想を(10月予想の)+11.8%から+23.2%に大幅上方修正していた。トルコ中銀が他の中銀と同じ「普通の」中銀であれば、大幅利上げを警戒し、リラ押し上げ圧力が働くはずの大幅上方修正だったが、29日の大統領発言(「物価も下がる」と断言していた)は、奇しくもリラ市場の特異性を証明したと言えただろう。同じ理由で、3日のトルコ1月CPIにリラがなんらかの反応を示すとしたら、高めの物価に対する「失望」のリラ売りの振れ幅の方が大きく出るのではないか。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
2/3	7:00	CPI(前年比)	1月		+48.00%	+36.08%

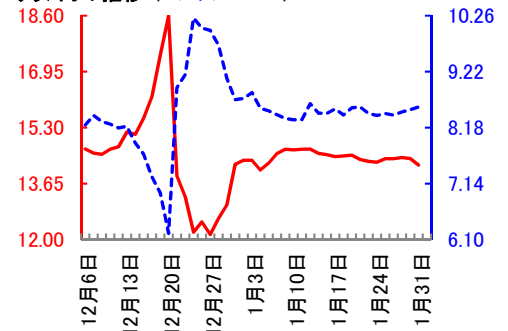
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



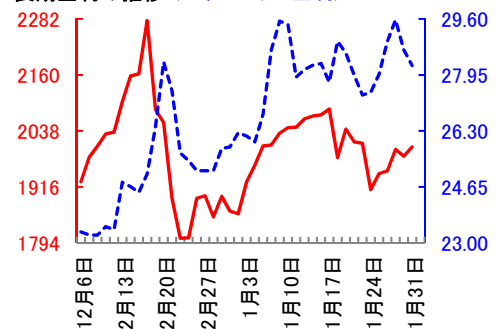
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン 17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年スワップ金利)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q3	+7.4%
失業率	11月	11.2%
消費者物価(前年比)	12月	+36.08%
鉱工業生産(前年比)	11月	+11.4%
小売売上高(前年比)	11月	+16.3%
貿易収支(USD)	12月	-6.79bn
経常収支(USD)	11月	-2.68bn

(注1) 31日欧州市場引け(時間外)に不自然な値動きで、一時、13.2800までへのリラ高を記録している

(注2) 同報を受け12日にリラは急騰を見せた

(注3) 期限が来る度に再預金される可能性は勿論考えられるものの

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。